

「1.2 教育」では、分科企画シンポジウムは会期 2 日目の 15 日(水)午後を開催しました。今回のテーマは、「物理のおもしろさを生徒や学生にいかに関連する授業を中心にして」とし、5 件の招待講演と一般講演 1 件を実施しました。今回は、前半は東日本大震災以来、関心の高い放射線をキーワードにしたご講演、後半は地域での科学教育普及に原子物理を活用したご講演で構成しました。具体的には、前半は、高校と大学との連携いわゆる高大連携に放射線を活用した実践事例について八戸工業大学の石山先生、放射線の知識を伝えるために演劇を活用した「放射線裁判」について東北大学大学院の藤原先生、ILC (国際リニアコライダー計画) の関連知識の授業への導入について広島大学大学院の高橋先生、後半は、広域・多機関連携を基調としたポスト 3.11 型科学教育プログラム開発等について岩手大学の高木先生、中学高校理科教科書における真空放電の位置づけと演示実験について京都大学の門先生から、限られた時間の中で大変貴重なお講演をいただきました。さらに、一般講演では、福井大学の葛生先生から、教員免許講習や理数探求イベント「ふくい理数グランプリ」への原子物理等の導入事例の発表がありました。どのご講演も授業展開や教示教材を工夫した上で、地域の特色を活かした大変ユニークなもので、一参加者としても大変充実した時間を過ごすことができました。また、本シンポジウムのテーマに共感された参加者が非常に多く立ち見が出るほど盛況でした。時間を忘れるほど活発な討論がなされていたことが印象に残っています。今後も機会を見て、物理と最先端の話題を組み合わせたシンポジウムが企画できればと思います。※写真は招待講演者で、紙面右側から、石山先生、藤原先生、高橋先生、高木先生、門先生の順 (プログラム編集委員、八戸高専・吉田)

